

表5 潜在的関連変数のカテゴリー別の社会活動性指標各側面の性・年齢調整済み平均点<sup>a)</sup>

変数	カテゴリー (括弧内は人数)	仕事	個人活動	社会・ 奉仕活動	学習活動
人口学的変数					
性	男 (468)	0.54	6.47	1.47	0.57
	女 (461)	0.29			
年齢	55～59歳 (283)	0.67	6.92	1.30	0.52
	60～64歳 (225)	0.43			
	65～69歳 (167)	0.31			
	70～74歳 (144)	0.15			
	75～79歳 (110)	0.12			
配偶者	あり (783)	0.42	6.75	1.45	0.67
	なし (122)	0.44			
健康指標					
総合的移動能力	レベル1 (851)	0.42	6.79	1.43	0.66
	レベル2 (78)	0.37			
健康度自己評価	非常に健康 (93)	0.52	7.02	1.86	0.84
	まあ健康 (657)	0.44			
	あまり健康でない (140)	0.27			
	健康でない (34)	0.27			
社会経済的指標					
学歴	未就学・尋常小・新制小学校卒 (74)	0.46	5.23	0.82	0.08
	旧制高等小・新制中学校卒 (179)	0.39			
	旧制中・新制高等学校卒 (400)	0.41			
	旧制専門・短期大学・大学卒 (242)	0.42			
暮らし向き	ゆとりがある (121)	0.48	7.21	1.86	0.86
	ふつう (636)	0.40			
	大変苦しい (168)	0.44			
地域指標					
居住地域	本村 (350)	0.48	6.37	1.76	0.74
	ニュータウン (579)	0.38			
町内居住年数	10年未満 (109)	0.35	6.19	1.12	0.53
	10～15年未満 (99)	0.37			
	15～20年未満 (152)	0.42			
	20～25年未満 (210)	0.38			
	25年以上 (342)	0.47			
社会活動に関わる意識					
社会活動継続意思	より多くの活動に参加したい (162)	0.45	7.33	1.87	1.11
	今の活動が続けられればよい (383)	0.44			
	活動を縮小又はやめたい (147)	0.45			
行政支援の必要性	思う (498)	0.44	7.14	1.74	0.86
	思わない (85)	0.42			
	わからない (229)	0.42			
地域共生意識	5～13点 (184)	0.42	5.56	0.51	0.25
	14～16点 (250)	0.41			
	17～19点 (237)	0.39			
	20～25点 (186)	0.46			

<sup>a)</sup> 性別、年齢階級別の平均点は、一般線形モデルを用いてそれぞれ他方を調整したもの。

その他は、一般線形モデルを用いて性、年齢の両方を調整した平均点である。

\*  $P < .05$ , \*\*  $P < .01$ , \*\*\*  $P < .001$ 。

表6 社会活動性指標の4側面と潜在的関連変数との関連<sup>a)</sup>

	仕事	個人活動	社会・奉仕活動	学習活動
	標準化係数	標準化係数	標準化係数	標準化係数
人口学的変数				
性	-.275***	.176***	-.007	.199***
年齢	-.394***	-.035	.116*	.273***
配偶者	-.008	.044	.068	.122**
健康指標				
総合的移動能力	-.019	.108*	.017	.024
健康度自己評価	.133**	.090*	.051	.043
社会経済的指標				
学歴	-.008	.116*	.053	.195***
暮らし向き	.037	.118**	.053	.007
地域指標				
居住地域	-.118**	.079	-.114*	-.112*
居住年数	.034	.061	.021	.030
社会活動に関わる意識				
社会参加継続意思	-.008	.084	.016	.173***
行政支援の必要性	.039	.035	.037	.086*
地域共生意識	-.032	.228***	.398***	.207***
重相関係数 (R)	.472	.514	.459	.483

a) 重回帰分析(強制投入法)による。

\*\*\*  $P < .001$ , \*\*  $P < .01$ , \*  $P < .05$ 。

指標<sup>a)</sup>であり、その4つの側面ごとに性、年齢、地域別の現状と、人口学的変数、健康指標、社会経済的指標、地域指標、社会活動に関わる意識との関連を分析した。

同町の中高年齢者においては、年齢が高くなるに従って「仕事」に従事するものは直線的に減少する一方で、「個人活動」は70歳頃までは高い水準を保っており、「社会・奉仕活動」や「学習活動」は高齢者では逆に増加していた。4側面間の相関分析でも、「仕事」とその他の3側面とは関連性を認めなかった。玉腰ら<sup>7)</sup>も、地域高齢者において「仕事」と他の3側面とは相関性が低く、年齢とともに「仕事」は減少するが他の側面の活動性は横ばいかむしろ増加すると報告している。おそらく高齢者では「仕事」をやめて増えた自由時間の一部を、「社会・奉仕活動」や「学習活動」に充てるため、こうした側面での活動性が高まるのであろう。

また、同町の中高年齢者の社会活動性は、性、年

齢以外にも居住地域(本村とニュータウン)によって大きく異なっていた。とくに、「社会・奉仕活動」と「学習活動」における地域差が著しく、ニュータウンの中高年齢者の活動性が極めて低いことがわかった。本村では、年齢が65歳以降でこれらの活動性が明らかに高まる傾向にあるのに対して、ニュータウンでは65歳以降にわずかに高まった後、70歳以降は減少していた。ニュータウンの中高年齢者は雇用労働者およびその退職者がほとんどを占めていることから、退職で増える自由時間が必ずしもこうした側面の活動性の増加に結びついていない実態がある。

中高年齢者の社会参加を促進する方途を探るうえで、社会活動性を規定する要因を明らかにすることは重要である。本研究は横断研究であり、規定要因を明らかにする研究デザインではないが、社会活動性に関連するいくつかの独立要因を知ることができた。そのなかで注目すべきは次の4点にまとめられる。(1)女性は「仕事」は少ない反面、「個人活動」と「学習活動」が活発であった、(2)総合的移動能力水準が高い、あるいは健康度自己評価が良い人の「個人活動」が活発であった、(3)居住地域は、「仕事」、「社会・奉仕活動」、「学習活動」のいずれとも関連があり、ニュータウン在住の中高年齢者はこれらの活動が不活発であった、(4)地域共生意識が高い人ほど、「個人活動」、「社会・奉仕活動」、「学習活動」が活発であった。

性と社会活動については、McIntoshら<sup>14)</sup>が人種をコントロールしたとき性と有給の仕事の間には有意な関連性がないとしているが、Chambre<sup>15)</sup>らは、女性は男性より有給仕事の従事率は低い、ボランティア活動には積極的に参加していると報告している。Wilsonら<sup>16)</sup>は、女性が男性より読書、TV視聴、ラジオ聴取といった活動を積極的に行っていると報告している。男女間における社会活動性の違いの有無やその程度は、当然のことながら国、地域あるいは時代によって異なると考えられ、その背景を一概に論ずることはできない。本研究で指摘されるのは、女性に比べ男性の「個人活動」や「学習活動」が不活発であるという点であり、とくに、「仕事」からリタイアした高齢期に、「仕事」に代わる側面の活動性を高めるための有効な対策が求められる。

高齢期において健康水準が社会活動性と関連す

ることは多くの研究により指摘されている。玉腰ら<sup>9)</sup>および Strain ら<sup>10)</sup>は、ADL や IADL の制限が社会活動性に負の影響を与えることを報告している。本研究では、対象者を総合的移動能力のレベル1と2にあるものに絞り、ADLに障害のあるものや、移動能力がかなり落ちたものは除いた。こうした集団においても、総合的移動能力や健康度自己評価であらわされる健康水準がより高いことが、共通して「個人活動」が活発なことと有意に関連していた。「個人活動」は「社会・奉仕活動」や「学習活動」に比べ、買い物、近所づきあいなどの日常茶飯事の行為を含み、軽度ではあっても健康水準の低下による影響を受けやすいと推察される。逆にいうと、「社会・奉仕活動」や「学習活動」は健康水準の低下があっても保たれやすい活動といえる。このことから、中高年者の社会活動性を維持・増進するには、健康水準を考慮した対策が必要であるといえる。

「個人活動」にはその他、学歴や暮らし向きといった社会経済指標も有意に関連しており、学歴が高く暮らし向きにゆとりがあると答えた人ほど、「個人活動」が活発であった。Wilson ら<sup>16)</sup>も、教育年数が長く、世帯の収入が高い人ほど、社会活動を積極的に行っていると報告している。本研究で用いた「個人活動」には、買い物、会食といったいわゆる消費活動や、旅行や運動、趣味といった余暇活動が含まれており、社会経済的水準がより反映しやすい活動領域といえるかもしれない。

「社会・奉仕活動」と「学習活動」においては、居住地域間に大きな差があり、ニュータウンの中高年者が不活発であった。同町の中高年者の社会活動性を高める施策づくりでは、この点は十分考慮されなければならない。説明変数間の相関関係で示されているように、ニュータウンの中高年者は本村の中高年者と比べると、年齢が若い他に、総合的移動能力が良く、学歴が高く、暮らし向きがよい、と答えた割合が高い反面、居住年数が短く、地域共生意識が低いという特徴がみられている。しかし、重回帰分析の結果にあるように、居住地域の要因はこれら人口学的変数、健康指標、社会経済的指標、居住年数、さらには社会活動に関わる意識といった説明変数とは独立して、これら社会活動の2側面と関連していた。つまり、居住地域によってみられた差異を、これら変数によ

っては説明することはできない。

「社会・奉仕活動」の項目には、地域行事、町内会や自治会活動、老人会（老人クラブ）への参加が含まれており、既存の地域組織を基盤とした活動を含んでいる。ニュータウンでは、本村に比べ老人クラブへの加入率は低く、町内会がない一方で、自治会への未加入世帯も多い（未加入率は増加傾向にある）。住民のこれら地域組織への関わりの薄さが、「社会・奉仕活動」が低いことの一要因と考えられる。一方、「学習活動」は、フォーマルあるいはインフォーマルな学習活動への参加と、シルバー人材センターでの活動からなる。フォーマルな「学習活動」の機会は、町内在住者であれば居住地域にかかわらず均等に提供されている。ただ、これら機会の情報伝達は、口コミや地域組織を通じた宣伝・広報活動に大きく左右されるため、ニュータウンの一般住民には情報が伝わりにくいと考えられる。上述のようにニュータウンでは住民の地域組織への参加率が低く、また、近所づきあいなどの地域内人間関係が相対的に希薄であるという特徴があるからである。玉腰ら<sup>9)</sup>も、高齢者の社会活動性についての地域比較から、大都市圏の地域で「社会・奉仕活動」が低いことを報告している。その理由として、地域により高齢者の社会参加促進のために実施している施策が異なるためではないかと推察している。しかし、本研究のように同一町内においても地域差がみられることから、小地域での人々のネットワーク形成の度合い（地域組織への参加、知人・友人関係、さらには近隣関係）といった要素をもっと考慮するべきであろう。ニュータウンの中高年者の「社会・奉仕活動」や「学習活動」を促進するには、既存の地域組織の活性化をはかることが必要と考えられる。

行政支援の必要性に関しては、それを認知する人の「学習活動」が高いことがわかった。同町では「学習活動」の機会は、その多くが行政および関連機関によって提供されている。「学習活動」が活発な中高年者ほど、そうした学習機会を利用するにつれ、行政支援の必要性を認識するようになったと考えられる。

地域共生意識は今回新たに導入した指標である。地域共生意識は、信頼感や連帯感に基づく人間関係を基本として地域の問題に取り組み、その

地方の自治を築こうとする意識や態度である<sup>13)</sup>。これまでみてきたように「社会・奉仕活動」と「学習活動」は、地域の間人関係を基盤として成立しているという側面を有している。「個人活動」についても、近所づきあい、知人・友人との交流、余暇活動といった、地域の間人関係の度合いが反映する項目を含んでいる。したがって、地域共生意識が「仕事」を除くこれら3つの側面の活動性と強い関連を示したことは十分うなずける結果である。本研究は横断研究であるので、「地域共生意識」と社会活動性との間の因果関係については言及できない。それについては、今後の追跡研究のなかで明らかにしていきたいと考えている。

以上、本研究では、埼玉県鳩山町に在住する中高年者の社会参加に関連する要因を横断的に分析した。鳩山町は、旧来の農村的要素を残している本村と都市的要素を有するニュータウンの二つから構成されているが、両地域の中高年者の社会活動性が著しく異なることがわかった。その背景には、既存の地域組織の機能、人と人とのネットワークの程度の違いがあると考えられ、これらが弱いためニュータウンの中高年者の「社会・奉仕活動」や「学習活動」が低いと推察された。また、本研究では、社会活動性の説明変数として「地域共生意識」を投入したところ、これが社会活動性指標4側面のうち「仕事」を除く3側面に共通して強く関連していることがわかった。中高年者の社会参加を促進するには、既存の地域組織の活性化、住民同士のネットワークの強化、および「地域共生意識」の向上をはかる必要性が示唆される。

本研究は、東京都老人総合研究所の特別プロジェクト「中年からの老化予防総合的長期追跡研究」の一環として行われた。本調査を行なうにあたり、ご協力下さった埼玉県鳩山町の保健センターの皆様と対象となった中高年者の皆様に、記して謝意を表す。

(受付 2003. 3.27)  
(採用 2004. 3.18)

## 文 献

- 1) 厚生省の指標臨時増刊 国民の福祉の動向。東京：厚生統計協会，2002。
- 2) Glass TA, Mendes de Leon CF, Marottoli RA, et al. Population based study of social and productive activi-

- ties as predictors of survival among elderly Americans. *BMJ*, 1999; 319: 478-483.
- 3) Mendes de Leon CF, Glass TA, Berkman LF. Social engagement and disability in a community population of older adults. *The New Haven EPESE. Journal of Epidemiology*, 2003; 157: 633-642.
- 4) Moen P, Dempster-McClain D, Williams RM. Jr, Successful aging: A life course perspective on women's multiple roles and health. *Journal of Sociological*, 1992; 1612-1638.
- 5) 金子 勇. 高齢化社会・なにがどうかわるか. 東京：講談社，1995。
- 6) 橋本修二，青木理恵，玉腰暁子，他. 高齢者における社会活動状況の指標の開発. *日本公衆衛生雑誌* 1997; 44: 760-768.
- 7) 玉腰暁子，大野良之，清水弘之，他. 全国市町村における高齢者の社会活動に関する実態調査の実施状況. *公衆衛生* 1994; 58: 738-742.
- 8) 大野良之編. 高齢者の社会活動評価法に関する研究班 生き生き社会活動チェック表利用の手引き，1998。
- 9) 玉腰暁子，青木利恵，大野良之，他. 高齢者における社会活動の実態. *日本公衛雑誌* 1995; 42: 888-896.
- 10) Jirovec RL, Hyduk CA. Type of volunteer experience and health among older adult volunteers. *Journal of Gerontology Social Work*, 1998; 30: 29-57.
- 11) Hunter KI, Linn MW. Psychosocial differences between elderly volunteers. *Journal of Aging Human Development*, 1980-81, 12: 205-213.
- 12) 三重野卓. 生活の質と共生. 白桃書房 2000.
- 13) 田中国夫，藤本忠明，直村勝彦. 地域社会への態度の類型化について—その尺度構成と背景要因—. *心理学研究*, 1978; 49: 36-43.
- 14) McIntosh BR, Danigelis NL. Race gender and the relevance of productive activity for elder's affect. *Journal of Gerontology: Social Sciences*, 1995; 50B: S229-S239.
- 15) Chambre SM. Is Volunteering a substitute for role loss in old age? An empirical test of activity theory. *The Gerontologist*, 1984; 24: 292-298.
- 16) Wilson RS, Bennett DB, Beckett LA, et al. Cognitive activity in older persons from a geographically defined population. *J Gerontology*, 1999; 54B: 155-160.
- 17) Strain LA, Grabusic CC, Searle MS, et al. Continuing and ceasing leisure activities in later life: A longitudinal study. *The Gerontologist*, 2002; 42(2): 217-223.

## PRESENT STATE OF SOCIAL PARTICIPATION AND ASSOCIATED FACTORS AMONG MIDDLE-AGED AND OLDER PEOPLE —A SURVEY IN HATOYAMA TOWN, SAITAMA PREFECTURE—

Jungnim KIM<sup>\*</sup>, Shoji SHINKAI<sup>2\*</sup>, Shu KUMAGAI<sup>2\*</sup>, Yoshinori FUJIWARA<sup>2\*</sup>,  
Yuko YOSHIDA<sup>2\*</sup>, Hideki AMANO<sup>2\*</sup>, and Takao SUZUKI<sup>3\*</sup>

**Key words** : social participation, middle-aged and older people, community, public support

**Background** Many studies have documented that social participation is beneficial for maintaining autonomy and quality of later life. However, little is known about present state of social participation in the Japanese elderly and effective means for its promotion.

**Purpose** To establish what factor might promote social participation in later life, this study was performed to examine the present state of social participation and a number of parameters among middle-aged and older people living in a Japanese community.

**Methods** The subjects comprised 1,568 residents aged 55 to 79 years, a 1/3 random sample selected from the total population of this age group in H town, Saitama Prefecture. They were requested to answer the questionnaire delivered by mail. We examined the level of social participation from four aspects: work, social and volunteer activities, individual pursuits and study activities, and analyzed possible associations with demographic, socio-economic, health-, and community-related variables by multiple regression analysis.

**Results** A total of 964 persons answered the questionnaire (61.5% response rate). Age and gender were associated with each of four social activity domains. Living arrangements (with or without spouse) were independently associated with social and volunteer activity, and study. Educational attainment positively correlated with work and individual pursuits. Residents in a newly constructed town-region were less likely to engage in work, social and volunteer activities, and study than their counterparts living in an older town-region. Those who had a stronger sense of co-living in the community, and who would like to keep their social activity level, were more likely to participate in social and volunteer, as well as study activities and also individual pursuits. People feeling that the municipality should support social activities among residents had a higher level of study activity.

**Conclusions** These results show that cultivating a sense of co-living in the community among residents and maintaining their motivation are needed for promoting social participation among older residents. To what extent public support should meet potential needs of social participation remains for further study.

---

<sup>\*</sup> Tokyo University of Social Welfare

<sup>2\*</sup> Community Health Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology

<sup>3\*</sup> Vice-Director, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology



問1. まず、あなたの性別、年齢、および住んでいる地域について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

性別	1. 男性    2. 女性
年齢	1. 55～59歳    2. 60～64歳    3. 65～69歳    4. 70～74歳    5. 75歳以上
居住地域	1. 亀井地区    2. 今宿地区    3. ニュータウン地区

問2. あなたの世帯の同居人数は、ご自分を含めて全員で何人ですか。人数をご記入ください。また、配偶者（夫または妻）はおられますか。

同居人数	ご自分を含めて_____人 ※一人暮らしの場合は、「1」とご記入ください
配偶者は	1. いる    2. いない    ※どちらかに○印をつけてください

問3. あなたはふだん、ご自分で健康だと思いますか。次のうち、もっともあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

1. 非常に健康だと思う	3. あまり健康ではない
2. まあ健康な方だと思う	4. 健康ではない

問4. 現在、あなたのお体の状態について、一番近いものはどれですか。もっともあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

1. 自転車、車、バス、電車を使ってひとりで外出できる
2. 家庭内および隣近所ではほぼ不自由なく動き活動できるが、ひとりで遠出できない
3. 少しは動ける（庭先に出てみる、小鳥の世話をしたり、簡単な縫い物などをするという程度）
4. 起きてはいるが、あまり動けない（床から離れている時間の方が多い）
5. 寝たり起きたり（床は常時しいてある、トイレ・食事には起きてくる）
6. 寝たきり

問5. ふだん、仕事（農作業も含める）・買い物・散歩・通院・社会活動などで外出する（家の外に出る）頻度はどれくらいですか。一つ選んで○印をつけてください。

1. 毎日1回以上	2. 2～3日に1回程度	3. 週1回程度	4. ほとんどない
-----------	--------------	----------	-----------

問6. 現在、収入をとまなう仕事（生計に関わる仕事）をしていますか。あてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。（複数ある場合は、主なものを選んでください）

1. 仕事はしていない
2. 常勤の仕事をしている
3. 非常勤・パートの仕事をしている
4. 自営業に従事している（家族従業員や自営の手伝いも含める）

問7. 次のような活動をどの程度なさいますか。

(1) 地域づくり・社会づくりのための社会活動をどの程度なさいますか。それぞれあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

	よくする	時々する	ほとんどしない
地域行事(お祭り・盆踊りなど)への参加	1	2	3
町内会や自治会活動	1	2	3
老人会(老人クラブ)活動	1	2	3
趣味の会など仲間うちの活動	1	2	3
社会福祉・奉仕(ボランティア)活動	1	2	3
特技や経験を他人に伝える活動	1	2	3
消費者団体・自然環境保護などの活動	1	2	3

(2) 次の個人的な活動をどの程度なさいますか。それぞれあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

	よくする	時々する	ほとんどしない
近所づきあい	1	2	3
生活用品や食料品の買い物(近所での買い物)	1	2	3
デパートでの買い物	1	2	3
近くの友人・親戚を訪問	1	2	3
遠方の友人・親戚を訪問	1	2	3
同居家族以外の人との会食	1	2	3
国内旅行	1	2	3



	よくする	時々する	ほとんどしない
外国旅行	1	2	3
お寺まいり（神社仏閣へのおまいり）	1	2	3
スポーツや運動	1	2	3
レクリエーション活動	1	2	3

(3) 次のような学習活動をどの程度なさいますか。それぞれあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

	よくする	時々する	ほとんどしない
老人学級・老人大学への参加	1	2	3
カルチャーセンターでの学習活動	1	2	3
町民講座・各種研修会・講演会への参加	1	2	3
シルバー人材(能力開発)センターでの活動	1	2	3

問8. 前回実施した、『第一回 鳩山町 中高年者の「社会活動」についてのアンケート』では、次の三つの課題が明らかになりました。

1. 退職したサラリーマンは、社会活動性が低い
2. ニュータウン地区の住民は、個人活動を除くその他の社会活動性が低い
3. 地域共生意識が乏しい住民は、社会活動性が低い

そこで、次の二つの質問について、あなたのご意見をお聞かせください。

(1) あなたは、自宅と職場が離れていた退職者など、地域社会とのかかわりが薄い中高年者に対して、地域活動に目を向けさせるために何らかの手立てが必要だと思いますか。

下の四角いワクに「甲」と「乙」の意見があります。あなたの意見は、回答欄 1～3 のどれにあてはまりますか。一つ選んで○印をつけてください。

↓

(回答欄)

- 甲：退職すると生活の場となるのだから、積極的に地域活動に目を向けさせる手立てが必要だ
- 乙：職場等のこれまでの交流関係を大切にすればよいのであって、地域活動にこだわる必要はない

1. どちらかといえば甲に近い 2. どちらかといえば乙に近い 3. わからない

(2) ニュータウン地区では、自主グループ活動が活発ですが、まだまだ一部の人の活動にとどまっており、既存組織の活動も低調な様子です。一般的に、地域活動にかかわりが薄い住民に対して、地域活動に目を向けさせることが必要だと思いますか。

下の四角い枠に「甲」と「乙」の意見があります。あなたの意見は、回答欄 1~3 のどれにあてはまりますか。一つ選んで○印をつけてください。

(回答欄)

甲：積極的に地域活動に関わって、新しい友人をつくったり、地域の問題にも関心をもつべきだ  
乙：家族やこれまでの人間関係・交流関係を大切にすればよいのであって、地域活動にこだわる必要はない

1. どちらかといえば甲に近い 2. どちらかといえば乙に近い 3. わからない

問9. あなたは、ここ2年の間（平成14年3月から16年2月までの間）に、退職などで仕事をやめましたか。

1. はい 2. いいえ

「2. いいえ」の方は、6ページの問10にすすむ

「1. はい」の方は、以下の問9-1から問9-7の質問にお答えください。

問9-1. それは定年退職でしたか？

1. はい 2. いいえ

問9-2. 全体として、仕事をやめたことについては、どう思いますか。（ひとつだけ○）

1. 大いに満足している 3. あまり満足していない  
2. まあ満足している 4. まったく満足していない

問9-3. 仕事をやめてから、次のような問題を感じていますか。それぞれあてはまる番号を一つ選んで○印をつけてください。

	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	全く感じていない
生活するのに十分な収入がない	1	2	3	4
生活のリズムがくずれる	1	2	3	4
世の中に役立つことができていない	1	2	3	4



【問9で「2. いいえ」とお答えの方へ】

問10. あなたは、今年（3月から12月の間に）、退職などで仕事をやめられる予定ですか。

1. はい 2. いいえ → 「2. いいえ」の方は、7ページの間11へすすむ

「1. はい」の方は、次の問10-1から問10-7の質問にお答えください。

問10-1. それは定年退職ですか？ 1. はい 2. いいえ

問10-2. 全体として、仕事をやめることについては、どう思いますか。（ひとつだけ○）

1. 大いに満足している                      3. あまり満足していない  
2. まあ満足している                      4. まったく満足していない

問10-3. 仕事をやめた後の生活を考え、次のような不安を感じますか。それぞれあてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。（ひとつだけ○）

	かなり感じている	少し感じている	あまり感じていない	全く感じていない
生活するのに十分な収入がない	1	2	3	4
生活のリズムがくずれる	1	2	3	4
世の中に役立つことができない	1	2	3	4

問10-4. あなたのいる会社や職場には、中高年齢者が利用できる次のような制度がありますか。それぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

退職後の生活設計の講座の開催や受講料の援助	1. はい 2. いいえ
健康・体力づくりの機会や場の提供、お金の補助	1. はい 2. いいえ

問10-5. 仕事をやめた後は、地域組織や地域活動への関心は増えそうですか。（ひとつだけ○）

1. はい 2. いいえ 3. わからない

問10-6. 仕事をやめた後、参加や関わりを増やそうと考えている地域組織、職域組織などはありますか。あてはまる番号に○印をつけてください。（いくつでも○）

- |                        |                                |
|------------------------|--------------------------------|
| 1. 町内会・自治会             | 6. 政治団体やその講演会                  |
| 2. ボランティア・社会奉仕団体       | 7. 退職者の会などの旧職場の集まり             |
| 3. 趣味や学習の会、スポーツの会・グループ | 8. 同窓会                         |
| 4. 宗教関係の会              | 9. その他（                      ） |
| 5. 婦人団体・市民運動団体・消費者団体   | 10. 特になし                       |



A-1

2004年6月 読み聞かせボランティア

## こころの健康といきいき生活アンケート

地 区
中央区

健康モニターの方  
(健診受診者)用

※太枠内にお名前・記入日をお書き下さい。

お 名 前
様

記 入 日
2004 年      月      日

アンケート点検者

〔※記入前に必ずお読み下さい。〕

このアンケートでは、あなたの普段の生活習慣や、からだところの健康に関することについておうかがいします。

質問は、問20まであります。途中で疲れてしまった場合は、一旦お休みになっても構いません。ご自分のペースで最後までご記入下さるよう、お願い致します。

なお、このアンケートの結果により選考やグループ編成などがされるわけではありません。あくまでも、読み聞かせボランティアによりご自身の生活やからだところの健康にどういう望ましい効果があるのかを見るだけですので、あまり深く考え込まず、思ったままにお答え下さい。

回答は、太枠内にご記入下さい。

問1. 普段、仕事・買い物・散歩・通院・社会活動などで家の外に出る頻度はどのくらいですか。次の中から、あてはまる番号 1 つに〇をつけて下さい。なお、介助されて外出する場合は含めて結構ですが、庭先のみやゴミ出し程度は含めないで下さい。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 毎日 1 回以上   | 3. 1 週間に 1 回 |
| 2. 2~3 日に 1 回 | 4. ほとんど外出しない |

問2.へお進み下さい。

【1 または 2 と回答された方のみ】主にどのようなことで外出しますか。次の中から、あてはまる番号 3 つ以内に〇をつけて下さい。

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| 1. 仕事                        | 5. 趣味・娯楽                       |
| 2. 買い物・用たし（銀行など）             | 6. 通院                          |
| 3. 知人（近所の人、友人、<br>親戚の人など）と会う | 7. デイサービスなどの保健<br>福祉サービスの利用    |
| 4. 散歩・スポーツ・体操                | 8. その他（                      ） |

問2. あなたの日常の活動性についておうかがいします。

(1) 以下の A~O の質問ごとに、「はい」か「いいえ」のいずれかあてはまる番号 1 つに〇をつけて下さい。

	はい	いいえ
A. バスや電車を使って 1 人で外出できますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
B. 日用品の買い物ができますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
C. 自分で食事の用意ができますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
D. 請求書の支払いができますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
E. 銀行預金・郵便貯金の出し入れができますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
F. 年金などの書類が書けますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
G. 新聞を読んでいますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2

	はい	いいえ
H. 本や雑誌を読んでいますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
I. 健康についての記事や番組に関心がありますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
J. 友達の家を訪ねることがありますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
K. 家族や友達の相談にのることがありますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
L. 病人を見舞うことができますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2
M. 若い人に自分から話しかけることがありますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
N. 小さい子どもに自分から話しかけることがありますか。 [注] 普段しない→「いいえ」とお答え下さい。	1	2
O. ひとりで電話をかけられますか。 [注] やろうと思えばできる→「はい」とお答え下さい。	1	2

(2) 以下のA~Hの活動をあなたはどのくらいの頻度でなさいますか。それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	年に1回以下
A. 新聞を読む	1	2	3	4	5
B. 雑誌を読む	1	2	3	4	5
C. 本を読む	1	2	3	4	5
D. テレビを見る	1	2	3	4	5
E. ラジオを聞く	1	2	3	4	5
F. 囲碁・将棋・麻雀・パズルなどのゲームをする	1	2	3	4	5
G. 美術館・博物館・音楽会・演劇・映画などに行く	1	2	3	4	5
H. パソコン・携帯電話を使用する	1	2	3	4	5



問3. あなたの日頃のおつきあいについておうかがいします。

(1) 次のA～Dにあてはまる方は何人程度いますか。それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	いない	1～4人	5～9人	10～19人	20～49人	50人以上
A. 親戚	0	1	2	3	4	5
B. 仕事で知り合った人	0	1	2	3	4	5
C. 近所づきあいをしている人	0	1	2	3	4	5
D. その他の友人 (学校・趣味のサークルで知り合った人など)	0	1	2	3	4	5

(2) 友人や近所の人たちと、合計してどのくらいの頻度で会ったり電話をしたりしていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1. 1週間に2回以上	4. 1ヶ月に1回程度
2. 1週間に1回程度	5. 1ヶ月に1回未満
3. 1ヶ月に2、3回	6. まったくない

(3) 次にあげる子どもたちと、日頃どのくらいの頻度で会ったり接したりしますか。それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

A. 孫

0. 毎日	4. 1ヶ月に1回程度
1. 1週間に2回以上	5. 1ヶ月に1回未満
2. 1週間に1回程度	6. まったく会わない
3. 1ヶ月に2、3回	7. 孫はいない

B. ひ孫

0. 毎日	4. 1ヶ月に1回程度
1. 1週間に2回以上	5. 1ヶ月に1回未満
2. 1週間に1回程度	6. まったく会わない
3. 1ヶ月に2、3回	7. ひ孫はいない

C. 近所の子ども

1. 1週間に2回以上	4. 1ヶ月に1回程度
2. 1週間に1回程度	5. 1ヶ月に1回未満
3. 1ヶ月に2、3回	6. まったく会わない

D. それ以外の子ども（ボランティアや催しものなど）

1. 1週間に2回以上	4. 1ヶ月に1回程度
2. 1週間に1回程度	5. 1ヶ月に1回未満
3. 1ヶ月に2、3回	6. まったく会わない

問4. あなたは、次のA～Dの考えについてどう思われますか。それぞれ、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちら とも いえない	どちらか といえば そうは 思わない	そうは 思わない
A. 町内会の世話をしてくれと頼まれたら、引き受けてもよいと思う	1	2	3	4	5
B. 自分の近所に独り暮らしの高齢者がいたら、その人のために日常生活の世話をしたい	1	2	3	4	5
C. 地域の人々と何かをすることで、自分の生活の豊かさを求めたい	1	2	3	4	5
D. いま住んでいる地域に、誇りや愛着のようなものを感じている	1	2	3	4	5

問5. あなたは普段、ご自分で健康だと思われますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1. 非常に健康だと思う	3. あまり健康ではない
2. まあ健康な方だと思う	4. 健康ではない

問6. 今の暮らし向きはいかがですか。次の中から、あてはまる番号 1 つに〇をつけて下さい。

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1. 大変ゆとりがある        | 4. どちらかというときしい |
| 2. どちらかというときゆとりがある | 5. 大変きしい       |
| 3. ふつう             |                |

問7. あなたの「おこづかい」(生活費以外で自由に使えるお金)についておうかがいします。

(1) 1ヶ月あたりにすると、「おこづかい」はどのくらいですか。次の中から、あてはまる番号 1 つに〇をつけて下さい。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 5千円未満      | 4. 2万円以上3万円未満 |
| 2. 5千円以上1万円未満 | 5. 3万円以上5万円未満 |
| 3. 1万円以上2万円未満 | 6. 5万円以上      |

(2) 「おこづかい」の主な使いみちは何ですか。次の中から、あてはまる番号 3 つ以内に〇をつけて下さい。

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| 1. 嗜好品(たばこ、酒など)・健康食品 | 6. けいこ事・習い事   |
| 2. ファッション・化粧品        | 7. 孫などへのおこづかい |
| 3. 趣味・娯楽             | 8. その他 ( )    |
| 4. 交遊・交際             | 9. ほとんど使わない   |
| 5. グループ活動            |               |

問8. この1年間(昨年6月1日～今年の5月30日)に転んだことがありますか。

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 1. <u>転んだことがある</u> | 2. 転んだことはない |
|--------------------|-------------|

問9. へお進み下さい。

【1と回答された方のみ】1年間に何回転びましたか。  
【注】数えきれない場合は-99と記入して下さい。

( )回

問9. ここ 2~3 年、体重は減少済みですか（ダイエットによる減少を除く）。  
あてはまる番号に○をつけて下さい。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問10. 最近1ヶ月、食欲はありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問11. あなたにとって「生きがい」となるものはありますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問12. あなたが普段感じていることや、あなたの性格についておうかがいします。次のA~Lの質問について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

	いつも そうである	しばしば そうである	そんな ことはない
A. 忙しい毎日ですか	1	2	3
B. 毎日の生活で時間に追われているような感じがしていますか	1	2	3
C. 何かに熱中しやすいほうですか	1	2	3
D. 仕事に熱中すると、他のことへ気持ちを切り替えにくいですか	1	2	3
E. やる以上はかなり徹底的にやらないと気がすまないほうですか	1	2	3
F. 自分の仕事や行動に自信が持てますか	1	2	3
G. 緊張しやすいですか	1	2	3
H. イライラしたり、怒りやすいほうですか	1	2	3
I. 几帳面ですか	1	2	3
J. 勝ち気なほうですか	1	2	3
K. 気性が激しいですか	1	2	3
L. 他人と競争するという気持ちを持ちやすいですか	1	2	3